

平成 30 年度 大竹市地域公共交通活性化協議会 事業経過報告

1 概 要

本協議会は、市域における住民生活に必要なバスなどの旅客輸送の確保並びにその他旅客の利便の増進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現を目的とし、市民・事業者・関連行政機関などが協議及び連携する場として、平成 20 年 3 月 25 日に発足した。

平成 21 年 3 月には、基礎調査、アンケート調査、住民ワークショップなどを実施し、これからの公共交通施策の根幹ともいえるべき「大竹市地域公共交通総合連携計画」を策定し、市民のための持続可能な公共交通体系の構築を目指し、各種事業に取り組んできた。

平成 26 年 3 月には、これまで進めてきた公共交通づくりに資する基本方針を踏襲するとともに、引き続き持続可能な公共交通体系を構築するために「第 2 期大竹市地域公共交通総合連携計画」を策定した。

さらに平成 31 年 3 月には、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、持続可能で利便性の高い地域公共交通網を構築するため、「大竹市地域公共交通網形成計画」を策定した。

2 平成 30 年度の事業内容

(1) 活性化協議会の開催

地域の実情に即した輸送サービスについて審議して決定するために本協議会を 3 回開催した。

	開催日	出席者	傍聴者	主な審議内容
第 1 回	5 月 28 日	16 人	2 人	○平成 29 年度事業経過報告・会計収支決算報告 ○平成 30 年度事業計画（案）・会計収支予算（案） ○御園台地区乗合タクシー（あじさいタクシー）の事業計画について ○地域公共交通活性化協議会規約の一部改正について
第 2 回	12 月 27 日	16 人	0 人	○大竹市地域公共交通網形成計画<素案>について ○地域公共交通確保維持改善事業（計画策定事業）事業評価について
第 3 回	3 月 18 日	16 人	3 人	○大竹市地域公共交通網形成計画<最終案>について ○こいこいバス、各乗合タクシー事業の実施主体の変更について ○活性化協議会所有財産の移管について ○消費税率引き上げに伴う運賃改定（案）について

【事業費（3 回分）】 報償費：175,000 円（@5,000 円×35 人） 食糧費：6,059 円

(2) 幹線交通検討分科会の開催

恵川橋バス停（大竹駅行き）、消費税率引き上げに伴う運賃改定などについて協議するため、本分科会を 2 回開催した。

恵川橋バス停（大竹駅行き）については廃止することを決定し、また、運賃改定については行わないことを協議会へ上申することとした。

	開催日	出席者	主な協議内容
第1回	9月18日	8人	○恵川橋（大竹駅行き）のバス停について
第2回	2月21日	6人	○消費税率引上げに伴う運賃改定の検討について

【事業費】 食糧費：1,560円

(3) こいこいバスの運行

平成21年10月から実証運行を開始し、平成24年4月に本格運行へ移行した。

平成30年度は、年間利用者数が145,463人となり、前年度より減少した。また、11月には「バスエコファミリーキャンペーン」を実施した。

【受託者】 (有)大竹交通、(有)大竹タクシー

【運行期間】 平成30年4月1日～平成31年3月31日

【運行区間】 JR大竹駅～JR玖波駅（全長：8.0km、停留所：19か所）

【運行日数】 毎日運行（平日：247日、土日祝日：118日、計：365日）

【運行便数】 平日：34便、土日祝日：32便

【利用者数】 145,463人 ※平均値：398.5人/日、11.95人/便

【運行経費】 29,590,000円 ※2台運行

【事業収入】 27,549,719円（収支率：93.10%）

{	運賃収入：16,487,223円	
	販売収入：10,802,000円	（事務局販売）
	広告収入：228,096円	（ベンチ）
	広告収入：32,400円	（車内）

【補助金額】 2,040,281円

【関連事業費】 バスエコファミリー補てん：12,800円、車内案内（音声データ）変更：72,900円
玖波駅東口バス停整備工事126,360円、こいこいバス停留所補修工事（飛石港、休日診療所前）453,600円

(4) 三ツ石地区乗合タクシーの運行

平成21年10月から実証運行を開始し、平成24年4月に本格運行へ移行した。

最も利用者数が多かった平成23年度以降、利用者が減少傾向にあったが、平成28年度から持ち直しをみせている。

前年度と比べると、利用者数が増加する一方で、1台当たりの利用者数と収支率は微減だが、運行及び運営状況は他の乗合タクシーと比べて最もよい。

【受託者】 (有)大竹交通

【運行期間】 平成30年4月2日～平成31年3月29日

【運行区間】 三ツ石地区～ゆめタウン大竹または市役所

【運行日数】 155日（毎週月・火・金曜日運行）※1/1～1/3運休

【運行便数】 11便/日（行き5便、帰り6便）

【利用者数】 1,556人（883台）※平均値：1.76人/台

【運行経費】 953,640円 @1,080円×883台

【運賃収入】 353,632円（収支率：37.08%）

【補助金額】 600,008円

(5) ひまわりタクシーの実証運行

平成 23 年 7 月から玖波 7 丁目で実証運行を開始し、平成 24 年 1 月には運行区域に玖波 8 丁目を編入した。

利用者数については、玖波 8 丁目の編入以降は増加傾向、平成 27 年度以降は減少傾向にあったが、平成 30 年度は増加に転じた。

【受託者】	(有)大竹交通
【運行期間】	平成 30 年 4 月 2 日 ~ 平成 31 年 3 月 29 日
【運行区間】	玖波 7・8 丁目 ~ JR 玖波駅または広島西医療センター
【運行日数】	155 日 ※1/1~1/3 運休
【運行便数】	11 便/日 (行き 5 便, 帰り 6 便)
【利用者数】	894 人 (659 台) ※平均値: 1.36 人/台
【運行経費】	669,420 円 @900 円×235 台, @1,080 円×424 台
【運賃収入】	187,489 円 (収支率: 28.01%)
【補助金額】	481,931 円

(6) 湯舟のりあいタクシーの運行

平成 24 年 1 月に実証運行を開始した。地区住民の意見を取りまとめながら運行内容を変更し、平成 29 年 6 月に本格運行へ移行した。

平成 30 年度は、利用者数が過去最高となり、1 台当たりの利用者数と収支率も前年度から増加した。

【受託者】	(有)大竹交通
【運行期間】	平成 30 年 4 月 3 日 ~ 平成 31 年 3 月 29 日
【運行区間】	湯舟地区 ~ 広島西医療センターまたはゆめタウン大竹
【運行日数】	154 日 (毎週火・水・金曜日運行) ※1/1~1/3 運休
【運行便数】	10 便/日 (行き 5 便, 帰り 5 便)
【利用者数】	736 人 (441 台) ※平均値: 1.67 人/台
【運行経費】	476,280 円 @1,080 円×441 台
【運賃収入】	167,267 円 (収支率: 35.12%)
【補助金額】	309,013 円

(7) 栄ぐるりんタクシーの実証運行

平成 30 年 3 月に実証運行を開始した。運行区域内に乗降場所と目的地を設定し、栄町地区内にある医療・買い物などの施設への移動手段を確保した。

【受託者】	(有)やまとタクシー
【運行期間】	平成 30 年 4 月 2 日 ~ 平成 31 年 3 月 29 日
【運行区間】	栄町地区 (南地区・北地区) ~ (地区内目的地) しまむら, 村井内科, 松前内科, 栄公民館, コミュニティサロン栄町, ゆめマート, (地区外目的地) 大竹駅または総合市民会館
【運行日数】	145 日 (南地区: 毎週月・水・金曜日運行) ※1/1~1/3, 祝日運休 150 日 (北地区: 毎週火・木・金曜日運行) ※1/1~1/3, 祝日運休
【運行便数】	11 便/日 (行き 5 便, 帰り 6 便)
【利用者数】	994 人 (767 台) ※平均値: 1.30 人/台 (南地区: 743 人 (551 台), 北地区: 251 人 (216 台))
【運行経費】	920,400 円 @1,200 円×767 台
【運賃収入】	248,500 円 (収支率: 27.00%)
【補助金額】	671,900 円

(8) あじさいタクシーの実証運行

自治会主導による導入検討を経て、平成30年7月に実証運行を開始した。

【受託者】	旬やまとタクシー
【運行期間】	平成30年7月3日～平成31年3月28日
【運行区間】	御園台地区～ゆめタウン大竹
【運行日数】	75日(毎週火・木曜日運行) ※1/1～1/3, 祝日運休
【運行便数】	8便/日(行き4便, 帰り4便)
【利用者数】	106人(97台) ※平均値:1.09人/台
【運行経費】	104,760円 @1,080円×97台
【運賃収入】	24,085円 (収支率:22.99%)
【補助金額】	80,675円

(9) 大竹・栗谷線の運行

大竹・栗谷線バスの運行を継続した。

(10) 坂上線の運行

防鹿地区管渠布設工事に伴い、工事期間中は迂回路での運行を実施した。

(11) 広報紙による啓発記事掲載

「広報おおたけ」(以下「市広報」という。)に公共交通や協議会の取り組みに関する記事を掲載し、市民への情報提供及び啓発を実施した。

【事業費】	印刷製本費:140,124円 @1.59円×6.4ページ×12,750部+消費税
-------	------------------------------------------

(12) バスエコファミリーキャンペーンについて

土日祝日の利用を促進するとともに、*モビリティ・マネジメントの一環として、こいこいバスについては、11月の土日祝日に限り、大人に同伴する小学生を無料とするキャンペーンを実施した。(平成23年度以降実施、利用者の増加に伴い、平成28年度から大人1人につき小学生2人を無料とする運用とした。)

※ モビリティ・マネジメント:マイカーに過度に依存した生活から、適度に賢く公共交通を活用する暮らしへ、ライフスタイルや意識の転換を促進する働きかけのこと。

【事業費】	小学生分補てん:12,800円(128人分) 《再掲》
【利用実績】	平成24年度:57人, 平成25年度:71人, 平成26年度:50人, 平成27年度:125人 平成28年度:112人, 平成29年度:89人, 平成30年度:128人

(13) 広告の募集について

こいこいバスの収入を確保するため、市広報及び市ホームページにこいこいバス(ベンチ広告, 車内広告)の広告募集記事を掲載した。

【平成30年度広告料収入】	《再掲》
こいこいバス:1社,	228,096円 (ベンチ広告22か所(44枠)分)
こいこいバス:2社,	32,400円 (車内広告12か月×2台分, 3か月×2台分)

(14) 大竹市地域公共交通網形成計画策定業務

持続可能で利便性の高い地域公共交通網を構築するため、専門的知識及びノウハウを有するコンサルタントに業務を委託した。

【受託者】	(株)地域未来研究所中国四国事務所
【業務名】	大竹市地域公共交通総合連携計画事業推進業務及び大竹市地域公共交通網形成計画策定支援業務
【履行期間】	平成30年6月8日～平成31年3月27日
【業務内容】	<ul style="list-style-type: none">◇ 公共交通に関する現状及び上位計画整理◇ 住民・利用者のニーズ調査◇ 計画事業の検討及び地域公共交通網形成計画のとりまとめ◇ パブリックコメントの実施支援◇ その他指定する業務
【事業費】	4,136,400円

3 大竹市公共交通活性化基金の活用

平成23年度に米軍再編に伴う防衛省の再編交付金を活用し、公共交通活性化基金を造成した。平成24年度以降、こいこいバスと支線交通を対象とし、運営経費の財源として活用している。

なお、平成27年度に94,558,000円を積み増しした。

【基金名】	大竹市公共交通活性化基金	※()は、積み増し後の数値。
【造成日】	平成24年3月29日(平成28年3月31日)	
【基金額】	105,000,000円(199,558,000円)	
【再編交付金額】	102,585,000円(197,143,000円)	
【事業年度】	平成24年度～平成29年度(平成24年度～平成47年度)	
【繰出金】	平成24年度：14,236,447円 平成25年度：16,037,693円 平成26年度：16,973,885円 平成27年度：12,132,868円 平成28年度：4,142,735円 平成29年度：4,694,316円 平成30年度：4,183,808円	{ こいこいバス：2,040,281円 三ツ石地区乗合タクシー：600,008円 ひまわりタクシー：481,931円 湯舟のりあいタクシー：309,013円 栄ぐるりんタクシー：671,900円 あじさいタクシー：80,675円
【基金残高】	133,252,404円(平成31年3月31日現在)	